

高松支店

地元農業者向け  
商談・販路拡大セミナー

香川県西讃農業改良普及センターと「商談・販路拡大セミナー」を共催しました。

セミナーでは、エグジビションテクノロジーズ株式会社代表取締役の井手一夫氏による「バイヤーのニーズや商談のポイント」に関する講演、バイヤー役とセラー役による実演形式の模擬商談を行いました。

参加者からは「今後の商談の際に今日得た知識を生かしたい」「模擬商談は両者のツボを押さえた対話のキヤッチボールが参考になり、楽しく受講できた」などのコメントが寄せられました。(11月14日)



セミナーには農産物の販路拡大を目指す地元農業者27人が参加しました

静岡支店

静岡茶復活に向け  
民間金融機関へ勉強会

浜松いわた信用金庫の本部・支店担当者を対象に、茶業界への理解促進と今後の日本公庫との連携強化を目的とした勉強会を開催し、対面・オンライン合わせ約80人が参加しました。

当日は公庫から、茶の生産概要や貸付審査時のポイント、浜松いわた信用金庫との連携支援メニューなどを紹介しました。

参加者からは「輸出の拡大などを背景とした茶業界全体の可能性を感じられた」「茶業を含む農林漁業者へのアプローチ意識向上の必要性を改めて感じた」などの感想が寄せられました。(12月8日)



多くの信用金庫職員に静岡茶の現状を知ってもらう良い機会となりました

松江支店

地域漁業の方向を考える  
水産関係者向け講演会

一般社団法人境港水産振興協会、境港商工会議所水産業部会などの関係機関と講演会を共催。境港市長をはじめ80人が参加しました。

講演会では、三重大学生物資源学研究科教授の常清秀氏が「持続可能なフードシステムと女性の力（食文化の継承と新しい挑戦）」をテーマに、フードシステムの現状や近年の「海業」への関心の高まり、三重県における女性主導の取り組みなどを説明しました。

参加者からは「水産業の発展には女性の目線も不可欠なことが再認識でき、大変参考になった」などの感想が聞かれました。(2月27日)



女性主導によるEC販売拡大への取り組みなどを語る常氏

情報部  
企画

カナダ農業信用公社と  
農業者支援など意見交換

カナダの政府系農業金融機関であるカナダ農業信用公社(FCC)のジャスティン・ヘンドリックスCEOが日本公庫本店に来訪し、意見交換を実施しました。

気候変動による農業への影響、農業者の高齢化、民間金融機関の農業分野への投融資、農林水産物の食品の輸出など多様なテーマについて、カナダ・日本の状況や、FCC・公庫の取り組みを相互に紹介。活発な意見交換が行われ、今後両国の農業・食品産業の持続的発展に向けた対話と協力を継続していくことで認識を共有しました。(3月11日)



カナダ・日本の共通課題について話し合うFCCのジャスティンCEO(右から3人目)と日本公庫の常葉本部長(同4人目)

◆私の祖父は木曾の御料林の管理の任を務めた。その山中で育った私は長じて登山が好きになった。そして石油化学コンビナートの職に就いたが強い違和感から35歳で屋久島での農林業に転じた。

以来、私の生業(仕事)と生きざま(人間性)とで森は生きる原点となってきた。だから、冬2号の『森の循環利用へ技術活用』特集には強い愛着と期待が持てた。

経済学者の宇沢弘文氏の「社会的共通資本」の概念が近頃やつと世界的に認められて「自然資本会計」の名で経済システムに組み込まれ出した。その結果、自然再興(ネイチャーポジティブ)なる概念も普遍性を持つ時代となった。こうした時代趨勢を先取りできるのが日本の森林だ。なにしろ世

界有数の森林占有率を誇る国土だからだ。日本の弱点であるエネルギー自給率の低さやカーボンニュートラルも森林活用で改善できる。その技術開発こそ本特集の眼目であり、日本の大きな世界貢献分野でもある。

SNSやAI搭載ロボットの登場により人類の生物としての五感退化しつつあると感じる。その回復のために戻るべき故郷は森林ではなからうか。自然生態系の中に身を置いて初めて生物としてのわが命の鎖が感じられるのだ。また、こうして得られる心の癒やしは世界中のツーリストたちにも通じるものと思う。

本特集を起点とする関係分野への統編を強く期待します。

(鹿児島市 吉見満雄)

## 次号予告 夏1号(8月発行)

### 人材確保への取り組み(仮)

2025年の農業従事者は約103万人と20年間で半減した。現場では職場環境の改善、柔軟な働き方、外国人材活用など人材の確保・定着への模索が続く。人手不足の現状と見通し、国の支援策などを通じて、今後の農業経営や人手不足克服への道筋を探る。

## ご意見募集

今号はいかがでしたでしょうか。感想やご意見をお寄せください。FAX・eメールなどで受け付けています。掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。

FAX: 03-3270-2350  
eメール: anjoho@jfc.go.jp

## 編集後記

④農業と食品産業は、よく「車の両輪」に例えられる。私自身、頭では理解していても、そのことを実感できる機会は多くなかった。今回の企画を通して、さまざまなかたちで連携する農業と食品産業の取り組みを伺い、実感として理解が深まることにも、農と食の連携とは、突き詰めれば「人と人のつながり」なのだと思付かされた。(清野)

④今回は特集②(万惣・アイドル野菜出荷組合)を担当。取材先が経営しているスーパーマーケットに事前訪問。平日の昼過ぎの時間にもかかわらず、多くのお客さままで活気に満ち溢れており、両者イチオシのハウレンソウを手取る方が多かったことが印象的でした。今回は対談形式となります。ぜひご一読ください。(宮崎)

④「農と食の邂逅」の取材で伺ったデリモ。撮影のため、栗田会長に事務所をご案内していただき、社員の方々と和やかに言葉を交わす様子が随所で見られました。一方「商開開発には厳しい目で臨む」という声を聞き、風通しの良い職場環境と高い意識が、良い商品づくりにつながっているのだと感じました。(澤田)

④梅干しを漬ける際に出る梅酢。「新・農業者」梅ボーイズの山本さんは、梅酢の良さを広めたいと梅酢のレシピをSNSで多数紹介しています。栄養豊富で夏バテにも効くそう。未利用品だった梅酢は、今や人気商品となっています。今夏も来るであろう酷暑を乗り切るべく、梅酢レシピを試してみたいです。(水谷)

## AFCフォーラム 2026.6 Forum 春2号

### ■編集

小柳 典義 清野 健 宮崎 善幸  
澤田 真理 黒川 知洋 村上 裕紀  
水谷 徳子

### ■編集協力

金子 弘道

### ■発行

株式会社日本政策金融公庫  
農林水産事業本部

〒100-0004  
東京都千代田区大手町1-9-4  
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー  
Tel. 03(3270)2268  
Fax. 03(3270)2350  
E-mail anjoho@jfc.go.jp

### ■印刷

株式会社DI Palette

\*本誌に掲載している記事、写真、図表、データなどをご利用になりたい場合は、事前に当社までご連絡ください。

国産にこだわり



をつなぎます



国産農林水産物・食品の商談会

第19回

アグリフードEXPO 東京 2026

日時

2026年8月19日(水)・20日(木)  
10:00-17:00 10:00-16:00

公式ホームページ



会場

東京ビッグサイト 東1ホール

主催: JFC 日本政策金融公庫